

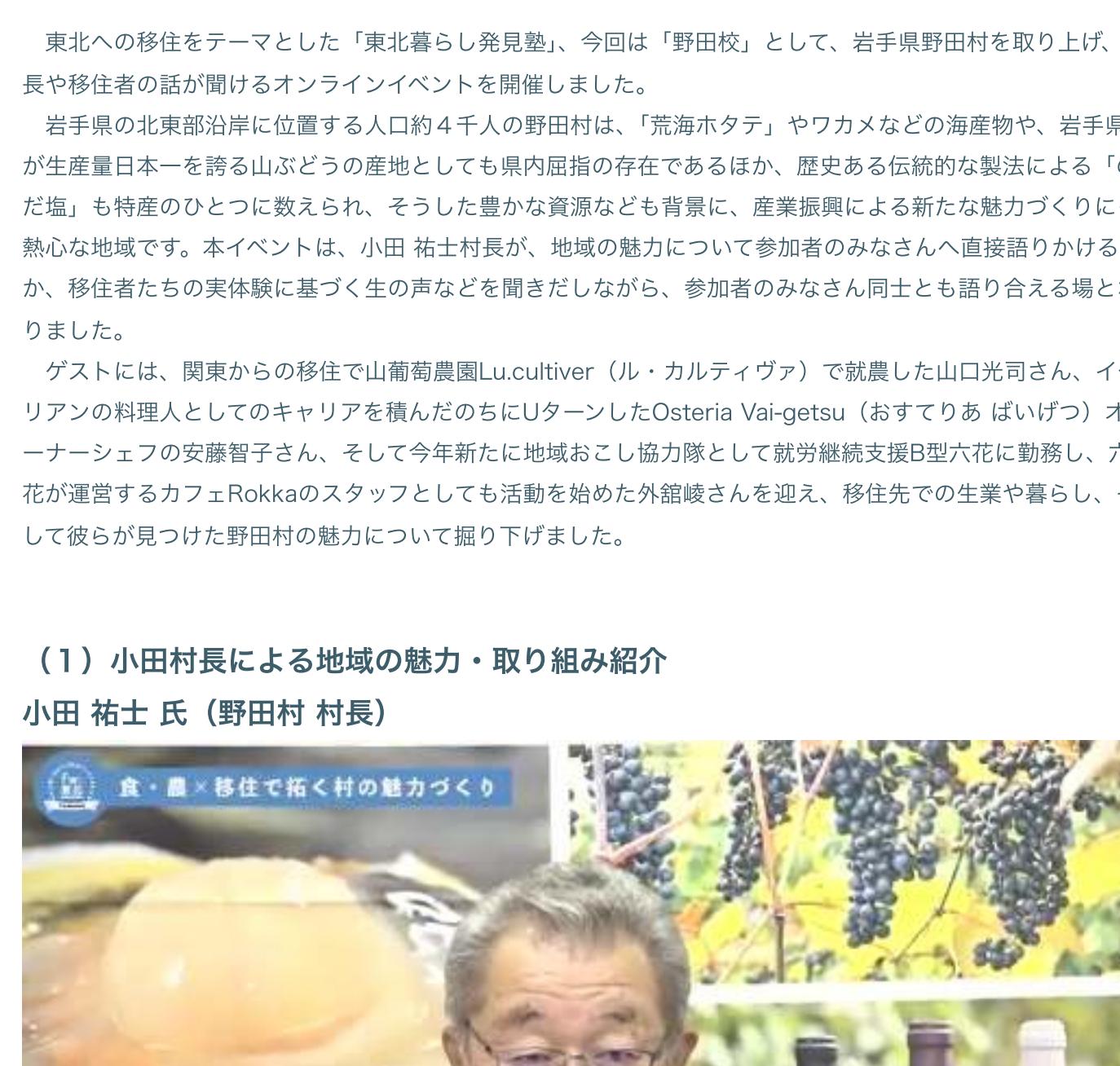
特集記事

Fw:東北 Fan Meeting 2023 東北暮らし発見塾（野田校）～食・農・移住で拓く村の魅力づくり

シェア Tweet

投稿日:2023年12月13日 カテゴリ: Fw:東北FanMeeting

Fw:東北 Fan Meeting 2023 東北暮らし発見塾（野田校）～食・農・移住で拓く村の魅力づくり イベントレポート



東北への移住をテーマとした「東北暮らし発見塾」、今回は「野田校」として、岩手県野田村を取り上げ、村長や移住者の話を聞けるオンラインイベントを開催しました。

岩手県の東北部沿岸に位置する人口約4千人の野田村は、「荒海ホタテ」やワカメなどの海産物や、岩手県が生産量日本一を誇る山ぶどうの産地としても県内屈指の存在であるほか、歴史ある伝統的な製法による「のだ塙」も特産のひとつに数えられ、そうした豊かな資源なども背景に、産業振興による新たな魅力づくりにも熱心な地域です。本イベントは、小田 祐士村長が、地域の魅力について参加者のみなさんへ直接語りかけるほか、移住者たちの実体験に基づく生の声などを聞きながら、参加者のみなさんと語り合える場となりました。

ゲストには、関東からの移住で山葡萄農園Lu.cultiver（ル・カルティヴ）で就農した山口光司さん、イタリアンの料理人としてのキャリアを積んだのちにUターンしたOsteria Vai-getsu（おすてりあ ばいげつ）オーナーシェフの安藤智子さん、そして今年新たに地域おこし協力隊として就労継続支援B型事業所六花に勤務し、六花が運営するカフェRokkaのスタッフとしても活動を始めた外館岐さんを迎えて、移住先での生業や暮らし、そして彼らが見つけた野田村の魅力について振り下げました。

(1) 小田村長による地域の魅力・取り組み紹介

小田 祐士 氏（野田村 村長）



小田村長は野田村について、「野田村は人口4千人の小さな村ですが、海あり、山あり、川ありの、自然に恵まれた、お酒に合う食べ物が多い村です。とくに、普通は控えめに話しますけれども、ホタテは日本一おいしいと自負できるものだと思っています。海水を汲み、山の木で火を焚き蒸発させて作る『のだ塙』もあります。また、震災後、様々な交流を行っています。道路や下水道の整備も進んでいて文化的な生活ができています」とのことでした。

「心はいもだ村人」事業も紹介されました。震災以降、野田村に思いを持っている人、繋がってみたい人がバーチャル村民として登録できる制度で、現在1,300人ほどの登録があるそうです。

小田村長は、「毎週のように登録が増えていて非常に嬉しいと思っています。地域おこし協力隊でも若い方が入ってきて非常に大きな力です。地元のじいちゃん、ばあちゃんからすると、若い系がいっぱい来た、と感じているようです。こうした方々との繋がりを含めて、皆で頑張っていけば、と思っております」と話してくださいました。

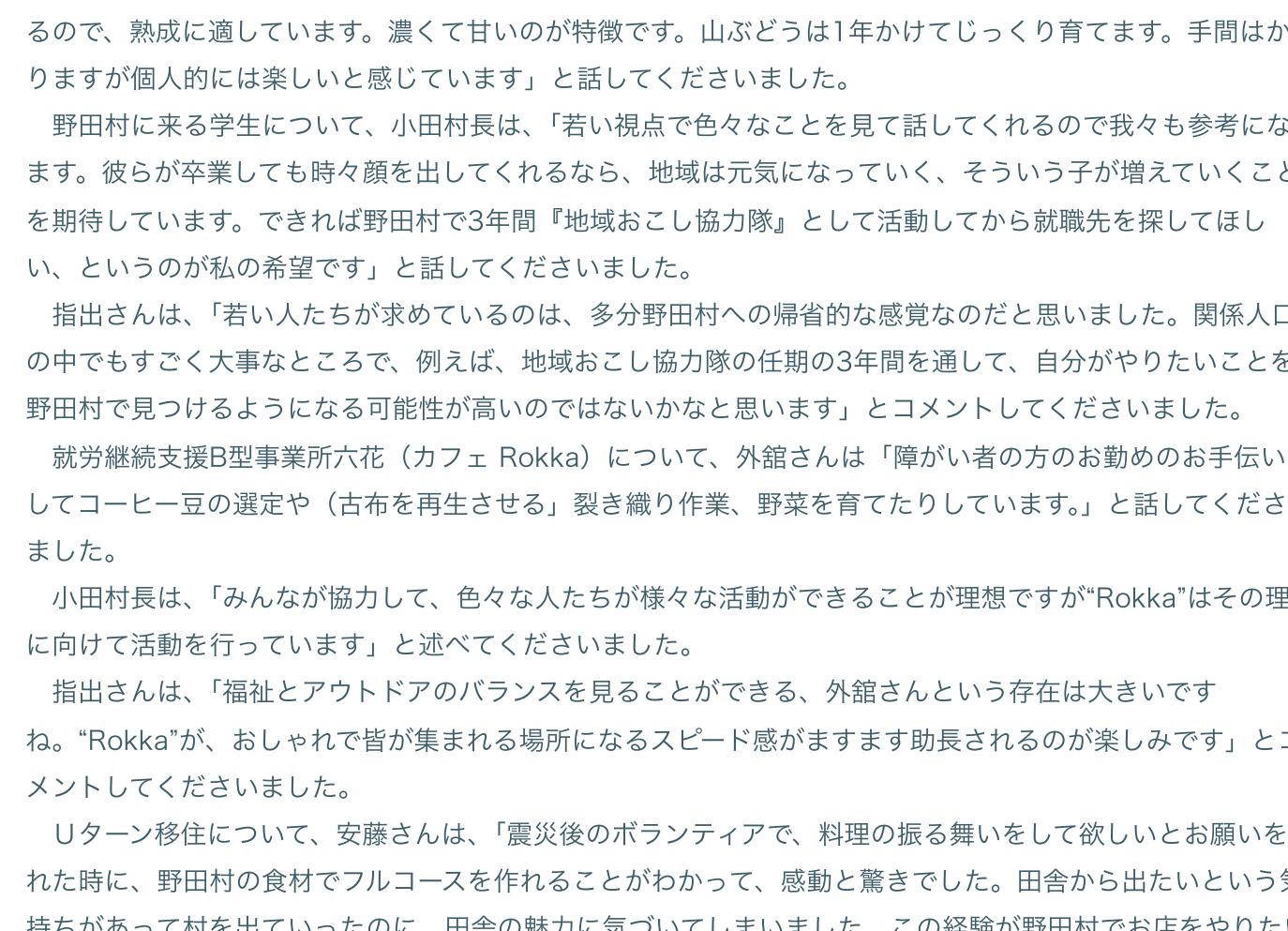
(2) 移住経験・支援者の自己紹介

安藤 智子 氏（地産地消レストラン Osteria Vai-getsu オーナーシェフ）



野田村出身の安藤さんは、高校卒業後、東京でシェフとして活躍されました。震災をきっかけに野田村にUターンしてお店をオープンしました。現在は3人の子供を育児しながら家業である漁師の仕事を行っているそうです。

山口 光司 氏（山葡萄農園Lu.cultiver）



山口さんは、栃木県の宇都宮市出身。大学卒業後に「地域おこし協力隊」として野田村の山ぶどう栽培を行なっています。

外館 岐 氏（地域おこし協力隊）



お問い合わせ

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局担当

Mail: new-to-ho-ku@tb.com

Tel: 03-6737-8291

©2015 「新しい東北」官民連携推進協議会 All Rights Reserved

カテゴリ

● 「新しい東北」復興・創生の星顕彰2023

● 「新しい東北」復興・創生の星顕彰2022

● 「新しい東北」復興・創生の星顕彰2021

● 「新しい東北」復興・創生の星顕彰2020

● 「新しい東北」復興・創生の星顕彰2019

● 「新しい東北」復興・創生の星顕彰2018

● 「新しい東北」復興・創生の星顕彰2017

● 「新しい東北」復興・創生の星顕彰2016

● Fw:東北FanMeeting

● インタビュー—2018

● みちのくみつけ

● 東北の明日を切り拓く

● 東北の「新たな挑戦」

協議会へ会員による
様々な復興・発展活動はこち

復興庁

Reconstruction Agency

「新しい東北」
官民連携推進協議会

